

発見!

# たからモノ ただみの文化遺産

第4回

お帰りなさい 雅舟先生

現在  
開催中

生誕百年 こんぼく 渾朴の書人 皆川雅舟展



## 只見町の雅舟書文化

ただみ・モノとくらしのミュージアムでは、第2回企画展「生誕百年 皆川雅舟展 只見が生んだ渾朴の書人」(会期：7月11日～10月9日 入館無料)を開催します。

皆川雅舟(政一郎、1923～2011)は、只見町田子倉に生まれ、1955年に田子倉ダムの建設によって郡山市に移住し、全国から出品される毎日書道展の審査員をつとめました。月刊書道誌を主宰して書道教育に力をつくし、福島県内外に多くの門人がいます。このような書道分野における精力的な活動が只見町民の師表になると認められ、只見町から「只見町名誉町民」の称号が贈られました。

只見町の多くの家や公共施設に、“雅舟先生”の作品が掲げられています。“雅舟先生”やその門人に書道を教わったり、家に“マイ雅舟”を飾ったりすること、それは只見町の“雅舟書文化”だといえます。



## 田子倉の自然が育んだ渾朴の書人

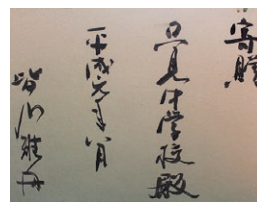
美術評論家の田宮文平(1937～2019)は、雅舟の書を「渾朴の書」と評し、田子倉の大自然に育まれたことが、雅舟の人と書の根本だと述べました。「渾朴」とは、「かざりけがなく、自然にわき出るありのままの姿」という意味です。

田子倉の深紅の秋、厳しい雪の冬、それを越えて来たる華麗な春、しかし春には憂愁が秘められていると雅舟はいいます。ふるさと田子倉の自然の美しさと恵みが、書人皆川雅舟を形成しました。

今回の企画展は、熊狩りの伝承を伝える家でもあった皆川家の狩りの巻物とヤマコトバ、田子倉集落の復元的景観と田子倉ダムの展示から始まります。

雅舟の書作品では、ふだん見ることができない屏風やパネルの大きな書作品を中心に約50点展示します。雅舟が使用した筆・墨・硯・雅印の名品も展示します。書人を形成したふるさと只見の地で、“雅舟作品”をぞんぶんに鑑賞(観照)できる展示です。みなさんの身近にある“雅舟作品”とその人を再認識してください。

文：久野俊彦  
写真：原永円香



◀「真善美の探究」の裏書



▲皆川雅舟作品「真善美の探究」(1989年に只見中学校に寄贈、只見町役場町下庁舎入口に掲示)



## ただみ・モノとくらしのミュージアム 展示情報



第2回企画展「生誕百年 皆川雅舟展 只見が生んだ渾朴の書人」

会期：2023年7月11日(火)～2023年10月9日(月・祝)

場所：ただみ・モノとくらしのミュージアム 展示ホール

入館無料